

それぞれに長所、短所があり、一概にどの方法がベストなのか決めるのは難しいのが正直なところです。

当教室では、各生徒の適応性、熟練度に応じた対応をとっていますが、現在のところ、基本的には3番目の両落として指導することが多いです。従来は片落として指導することが多かったのですが、効率性と正確性を天秤にかけたうえで両落とし中心の指導方法に変更しました。高学年生の中には、当初は片落としたのに、途中から両落としに変わった生徒もいますが、幸いにも全員が特に支障なく移行できています。

前述しましたが、応用計算にて出題される問題 $\sqrt{690 \times (345 + 135)} \div 230 = \square$ のように計算の過程でかけ算を使用する場合には、両落としよりも片落としの方がスムーズに計算できます。まずカッコの中をソロバンで計算し480とおく→次に480を実とし、片落として690をかける→最後にその答えを230で割るという手順のほうがより確実に正解にたどり着けます(このような場合、定位点が1の位にならないので、左手の人差し指を使い1の位を認識する)。従って理想を言えば問題に応じてどちらの方法とも使い分けられるのが良いでしょう。片落としから両落としへの移行は戸惑ってしまう場合がありますが、逆の両落としから片落としの場合は比較的、スムーズに移行できます。

ちなみに、わり算の場合は、教室では実(割られる数)だけをソロバンに置く片落として進めることが多いです。かけ算とは異なり、答えのケタ数は比較的少なくなりますし、両落としよりも片落としのほうが実用性が高いからです。

掛け算の方法を中心に大まかに説明してみましたが、大体お分かりいただけでしょうか？

実際のところは、そろばんの指導法というのは幾つもあります。教室が変わると指導法がガラッと変わることも決して珍しくありません。なぜならばこれが絶対！という方法は存在しないからです。少し極端な言い方をすれば、いかなる方法であっても正答に辿り着ければよいともいえる訳です。指導者がどの点を重視しているかによって指導法が変わってくるといっても良いかもしれません。



たのしみ

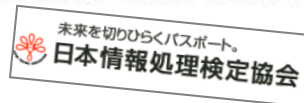
両落としの中にも、・実から法へかける・法から実へかける あるいは ・ケタ数の少ない方から多い方へかける・逆にケタ数の多い方から少ない方へかける・その都度問題をみて決める…など本当にさまざまです。

当教室では、近年暗算教育に力を入れており、多くの生徒に暗算段位の取得を目指してもらいたいと考えています。そのためには、多くのハードルを乗り越えなければいけません。まずは珠算と暗算のかけ算の方法を統一することが近道であると考え、この方法に至りました。各生徒のみなさんには、そろばん式暗算力を身につけ段位獲得を目指すことを目標の目安にってもらいたいと切望します。諦めずに継続して練習すれば、絶対に到達できますよ～。

***1月・3月の検定試験では5名の生徒が暗算段位にチャレンジする予定です。段位は連続して受験すれば3回の検定試験の中で最も良い点数を基準に判定されるシステムなので、3月・5月あたりにゴールを定めています。必ず希望の段位が獲得できることを信じて…受験するみなさん、ふぁいと～!



祝 合格おめでとう！ (試験日:令和3年12月19日)



第129回 日本語ワープロ 検定試験

10分間で正確に文章を入力する速度と、20分間で体裁の良い文書を作成する文書問題に分かれます

合格級	名前	学校	学年	合格級	名前	学校	学年
準1級	田副成海	南部中	二年	3級	渥美陽	小坂井東小	6年
					河合泰誌郎	牛久保小	5年
					林大翔	小坂井東小	5年

第127回 情報処理表計算 検定試験

合格級	名前	学校	学年
1級	上田柚月	小坂井中	三年生

*上田さんは2度目の1級挑戦でしたが、今回はみごと百点満点でした。おめでとう～!

*今回の検定試験ではパソコンレッスンに通っている社会人のかた(60代女性)が文書デザイン2級に合格しました。この生徒さんは既にワープロ検定2級・エクセル検定準2級にも合格。近い将来パワーポイントにも挑戦予定。超エネルギー！
*次の検定試験は3月6日。3月の次は7月検定となり4ヶ月間も空いてしまいます。6年生の生徒を中心に、みな3月検定で合格できるよう日々、特訓中です。みんな、ガンバローねっ。

